

末広町北公園・高架下プロジェクト基本計画 ～概要版～

01 現況及び課題とポテンシャルの整理

計画地は、京阪古川橋駅南口から西に位置し、古川橋特定土地区画整理事業によって形成された公園である。

課題

- 古川橋駅から徒歩数分と近い立地であり、通勤・通学・買い物等で行き来している人が多いにもかかわらず、利用者層や利用シーンが限定的で、多様な人の滞留や活動が十分に生まれていない。
- 園内に設置されたパーゴラの日除け機能が十分に発揮されておらず、夏季や日差しが強い日を中心に快適性が確保されていない。

機会とポテンシャル

- <末広町北公園>
 - 公園南の植栽帯により、隣接する建物からの視線が緩和されており、落ち着いた滞留空間が形成されている。
- <道路(末広東西1号線)>
 - 通勤・通学動線として利用されており、特に平日の早朝や夕方には人通りが多く、日常的に多くの人の目に触れるポテンシャルを有している。
- <高架下>
 - 雨除け機能を有する高架下に公園が隣接しており、天候に左右されにくい半屋外空間としての一体的な利用が期待できる。
 - 現在は駐車場・駐輪場としての利用がほとんどだが、道路に面していることや高架により雨がかりを避けやすいという特性を活かした、多様な活用方法が考えられる。



04 整備方針と実現に向けた方策

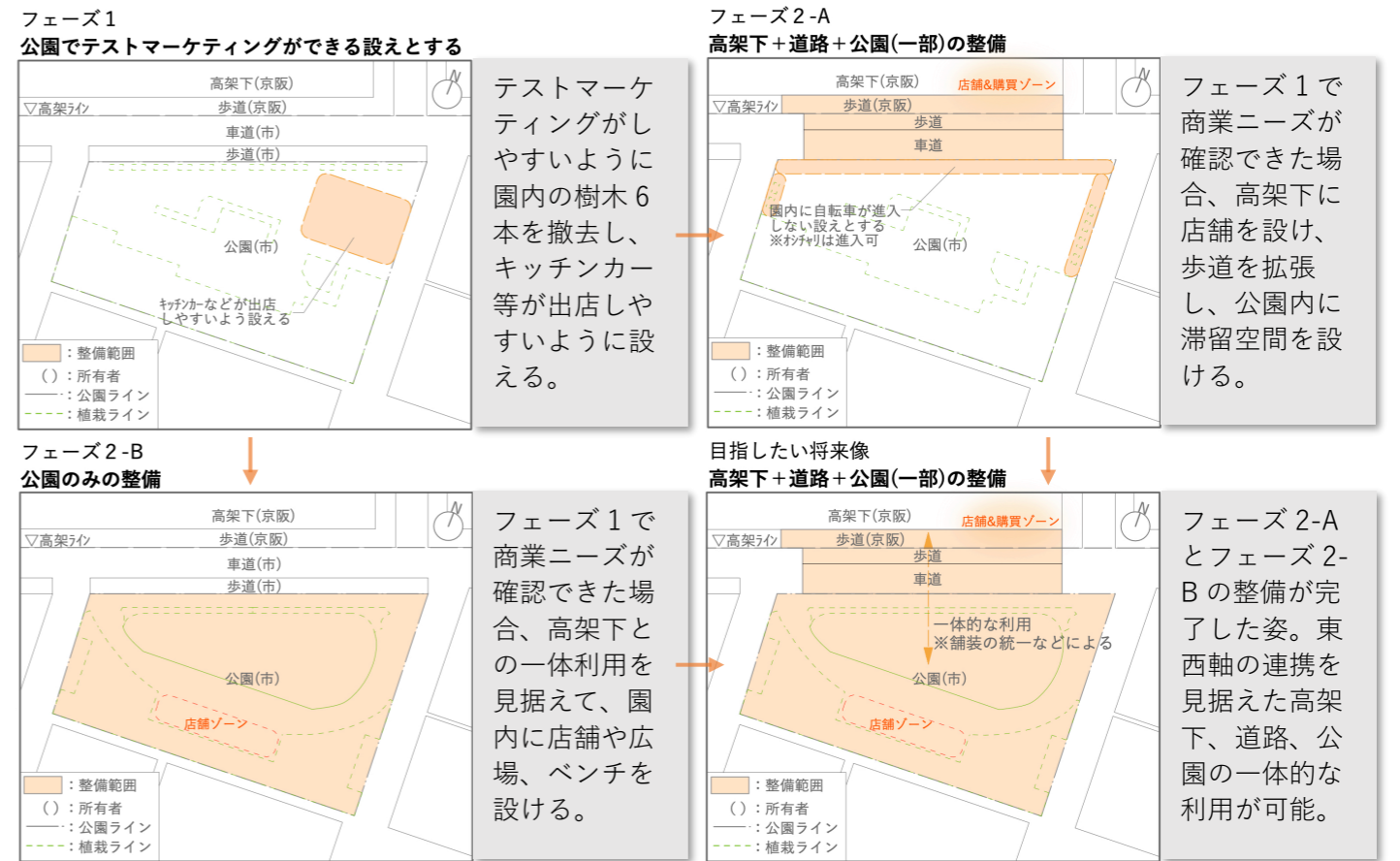
整備方針1 市民のニーズや課題抽出に向けた段階的な整備

- 方策① フェーズ1としての公園内におけるテストマーケティングの実施
- 方策② テストマーケティングに加え、人の滞在時間や使われ方を検証した上での、整備範囲および導入するコンテンツの整理・検討

整備方針2 高架下歩道、道路、公園を一体的に活用し、歩きやすく、立ち止まりたくなる空間の形成

- 方策① 高架下歩道と公園の一体的な空間形成
- 方策② 歩行者を最優先とした動線計画と安全性の確保
- 方策③ 既存駐輪場機能と新たな利用の両立
- 方策④ 周辺建物への配慮と環境調和
- 方策⑤ 回遊性と賑わいを生み出す空間構成
- 方策⑥ 多様な使い方に対応できる滞留空間の整備

05 整備計画と活用イメージ ※市民のニーズや課題等の抽出のため、段階的な整備とする



02 社会実験

末広町北公園・高架下のウォークアブルな環境づくりの検証を目的に実施した。



- ◀効果検証結果▶
- 末広東西1号線の自転車の通行量が多いことがわかった。
 - 来場者からは当該エリアへの店舗の出店を期待する声が寄せられた。
 - 日除け機能のある滞留空間のニーズが確認された。
- ⇒高架下から公園が一体的に感じられ、居心地良く安心な空間整備を図る

03 整備コンセプト

まちのよしみちテラス

～高架下と公園が紡ぐ新しい日常～

京阪高架下と末広町北公園をひとつの場所として捉え、駅からすぐ立ち寄れる、歩いて楽しい空間を創出する。ベンチや小さなお店があり、散歩の途中で休んだり、用事の前後に少し過ごしたりできる。地域の活動の場として使えるだけでなく、子どもから高齢者まで、自然に顔を合わせて会話が生まれる、にぎわいのある場所を目指す。

06 整備スケジュール

令和5年5月に「古川橋駅周辺地区まちなかウォークアブル推進基本構想」を策定。同構想に基づき、令和6年11月に社会実験「PLAY FURUKAWABASHI Vol.2」を実施した。その結果を受け、本計画をとりまとめた。今後は、エリアのステークホルダーとも連携し、テストマーケティング等により市民のニーズや課題を抽出しながら、実施設計・工事を旨とする。

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度以降
		「末広町北公園・高架下PJ」基本計画の策定※		実施設計・工事(予定)
	「古川橋駅周辺地区まちなかウォークアブル推進基本構想」の策定			
	社会実験「PLAY FURUKAWABASHI Vol.2」の実施		エリアのステークホルダーとも連携し、テストマーケティング等により市民のニーズや課題を抽出しながら、実施設計・工事を旨とする	

※古川橋駅周辺地区まちなかウォークアブル推進基本構想に示された4つのプロジェクトと合わせて策定